

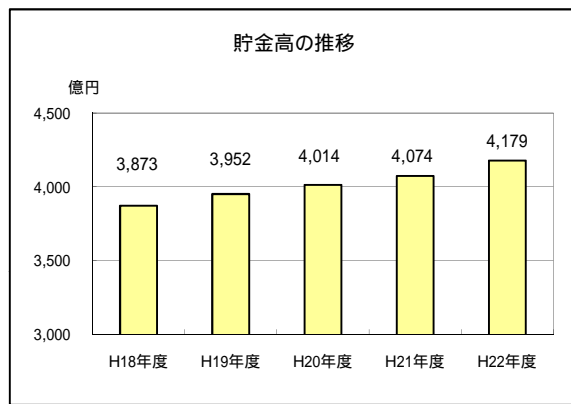
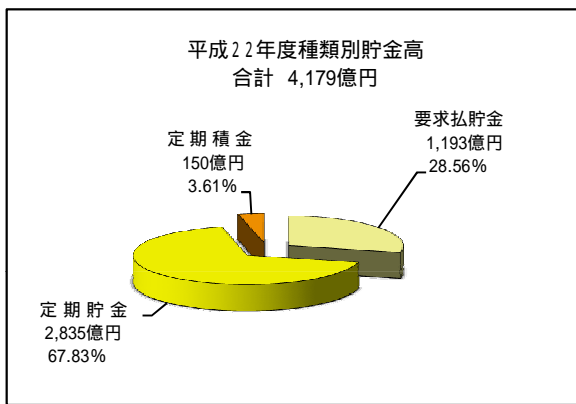


ディスクロージャー

平成22年度事業の概要

貯金

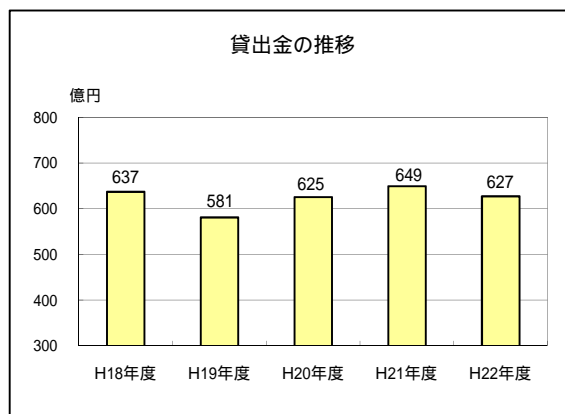
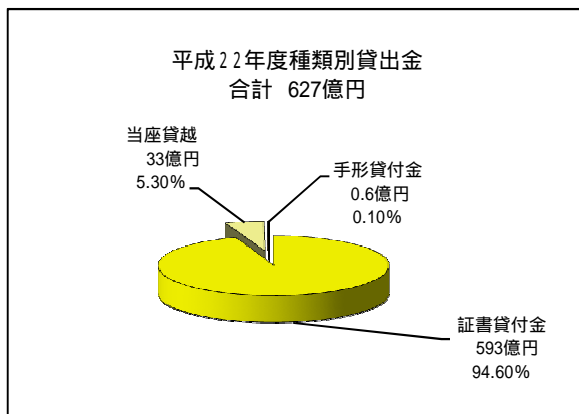
組合員と地域の皆さまに愛され親しまれ、信頼されるJAバンクを目指しコンプライアンス（法令遵守）はもとより窓口サービスの向上と年金相談会及びローン相談会の開催による金融サービスの提供につとめることを重点事項とし、府内統一キャンペーンをはじめ当JA独自のキャンペーンを企画し、貯金増強に積極的に取り組んでまいりました。また、機能が充実したJAカードを積極的にお勧めし、利便性の向上並びにサービスの拡充をはかり、安心・信頼されるJAバンクを目指し取り組みを展開いたしました。



貸出金

貸出業務では、農業情勢の厳しいなか、農業生産費用の削減に向け、JAバンクアグリ・エコサポート基金による利子助成により農業経営の支援を行うとともに農業者に安定した農業経営資金の提供が出来るようつとめてきました。

組合員のエコ住宅やバリアフリー住宅など快適な生活環境の実現に向け、長期固定で低利なローンの提供に取り組むとともに、生活面でもマイカー購入や子弟の教育に係る資金に関して低利な資金提供につとめました。



貸倒引当金

債権等の貸倒れによる損失に備えるため、金融検査マニュアル及び資産査定要領にもとづく自己査定を厳正に行い、資産の健全化に取り組んでいます。資産自己査定の結果、貸倒引当金については債権の償却引当基準にもとづき必要額を計上しています。貸倒引当金の総額は43億円（うち個別貸倒引当金41億円）となりました。

自己資本比率

多様化するリスクに対応するとともに、組合員や利用者のニーズに応えるため、財務基盤の強化を経営の重要課題として取り組んでいます。内部留保につとめるとともに、不良債権処理及び業務の効率化等に取り組みました結果、平成23年3月末における自己資本比率は、17.46%となりました。

共済事業

ご契約内容説明や仕組み改訂内容のお知らせ活動を中心に「3Q訪問活動」を展開し、組合員やご契約者に「安心と満足」をいただけるよう取り組みました。平成22年度の長期共済保有高は1兆9,397億円となり、お役に立った共済金の支払い状況は237億円でした。特に建物更生共済では、自然災害に対する共済金として1億円がお役に立ちました。自動車共済においては、ご契約件数の約4件のうち1件が最高水準保障の「クルマスター」のご加入をいただき、万一の事故にもご満足をいただく結果となりました。

購買事業

組合員の営農を支援する事業を進めるため、営農指導と一体となった効率的な事業態勢に整備することを柱に事業に取り組み、生産コストの低減のため予約購買を推進し、早期予約の積上げにつとめ、とりわけ大規模農家、営農集団には、TAC(営農経済渉外係)と連携し、メーカーからの直送による特別価格対応を行いました。また、資材の早期予約を徹底し価格メリット発揮につとめるとともに、無人ヘリによる省力化防除や廃棄農薬、農業用廃プラスチックを回収し環境に配慮した取り組みを進め、合計で65億円のご利用をいただきました。

販売事業

全ての農産物について、信頼される産地として「安全・安心」を基本に置き、独自の残留農薬検査をはじめ、京都府や農政局が実施する抽出検査にも対応しています。さらに、米と伝統野菜では、化学肥料や農薬の使用回数に制約のある「こだわり農法」の実践についてNPO法人「京の農産物あんしんネットワーク」の検査を受けています。販売する全ての農産物について、生産履歴の確実な記帳を行い信頼される産地として「安全・安心」を基本に事業を展開しました結果、平成22年度の販売品取扱高は84億円の実績となりました。また、府内最大級の農畜産物直売所「たわわ朝霧」では、地産地消、今づき米の対面販売を行い「生産者と消費者の架け橋、交流の場」となる取り組みを進めました。

加工事業

農協牛乳等の地産地消として学校給食をはじめ地元量販店、生協等に販売いたしました。安全・安心は生産者の顔が見える牛乳という地産牛乳の特性を生かした宣伝活動を行い、加工販売高は14億円の実績となりました。

利用事業

育苗センターにおける健苗育成、カントリーエレベーターやライスセンターでは品位の揃った米に仕上げ、地域の農業を支援する基幹施設としての機能発揮につとめました。利用事業の利用高は9億円の実績となりました。